

今回は、SDGs と道徳教育に関するお知らせです。

◇ 本校は、令和3年度 岐阜県道徳教育振興会議 研究指定校です。

令和3年度、関高校は岐阜県道徳教育振興会議より研究指定を受けました。以下は、指定の趣旨からの抜粋です。

変化の激しい今日の社会において、幼児児童生徒が主体的によりよく生きていくためには、日常生活における具体的な実践に結び付く道徳的判断力や心情、主体的に道徳的な実践を行う意欲と態度を育むことが重要である。

関高校は、文科省指定のSGHネットワーク参加校であり、岐阜県指定のFRH指定校です。1・2年全員が、週1回の「総合的な探究の時間」を活用し、国連の掲げるSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた課題解決型研究を進めています。

今回、道徳教育の指定を受けるにあたり、本校では、SDGsに関わる研究をメインテーマに掲げることとしました。SDGsの達成に向けた本校の活動と、岐阜県道徳振興会議の活動趣旨は、まさに一致すると考えるからです。研究主題と具体的目標、主題設定の理由に関しては、以下に詳述します。



◇ 道徳教育推進にあたっての研究主題と具体的目標

<研究主題> グローバルな視点で地域共創をめざすエシカルリーダーシップの育成

<具体的目標>

- ・「持続可能な開発目標」(SDGs)を道徳的・倫理的な課題としてとらえ、その解決に向かうリーダーの育成。
- ・多様な価値観や生き方を尊重し、共生をめざす地域社会のリーダーの育成。
- ・社会課題の解決を自己の生き方と重ねて考え、思いやりと寛容の精神で他者と向き合えるリーダーの育成。

<研究主題設定の理由>

人権・環境・平和・福祉といった国際社会の諸課題は、地域にとっても解決すべき喫緊の課題である。本校は、県指定SGH・FRH校、文科省SGHアソシエイト校として、こうした社会課題の解決を目標とする研究を、過去7年間継続し今日にいたっている。課題解決にあたっては、生命への畏敬、未来の世代への責任、多様な価値観や多文化共生への理解など、道徳的・倫理的な視点が必要不可欠である。課題解決型研究を重ねる中で、そのことを痛感した本校は、従来の活動を総括し、今年度の研究目標と活動を計画するにいたった。

なお、本校では、SGH校・FRH校としての活動実績を踏まえ、人が守り従うべき規範としての道徳 moral に加え、グローバル化の進展に伴う価値基準の多様化に対応した客観的・普遍的な規範としての倫理 ethics の観点を加えた研究を行うこととする。

## ◇ 「総合的な探究の時間」の活用

本校では、週1回の「総合的な探究の時間」を活用し、1・2年生全員が課題解決型研究に取り組んでいます。1年生は「SDGsとまちづくり」、2年生は家庭科授業と連動した「くらし・いのち・きずなのSDGs」を学年テーマに掲げ、個人研究（1年生）及びグループ研究（2年生）を実施しています。今回、「岐阜県道德教育振興会議」の研究指定を受けるにあたり、本校では、従来の研究活動を再検討し、社会課題を道徳的・倫理的観点からとらえることとしました。研究計画は以下の通りであり、おおむね実践しています。

- 4月 ガイダンス リサーチ活動
- 5・6月 リサーチ活動 具体的テーマ設定
- 7・8月 SDGs実現にむけた地元企業によるオンラインセミナー受講(必須)  
フィールドワーク(希望者)
- 9・10月 レポート作成、クラス代表選考会
- 10～12月 学年代表選考会、ポスターもしくはスライド作成
- ※ 有識者による希望者対象のエシカルセミナーを開催  
発達障がいについて(10/18) LGBTQについて(12/23)
- 1・2月 研究の総括と1年の振り返り
- 3月 探究活動発表会(校内)

## ◇ 地域連携イベントの企画運営

本校では、自治体や企業、大学、NPOと連携した外部イベントを実施しています。イベントの中で、エシカルリーダーシップの育成と関わるものを以下に列挙します。

<まなびかふえ> 第1回 6月26日(土) 第2回 10月31日(日)

探究活動の成果を、関市内の観光交流施設(せきてらす)で公開しています。外国人技能実習生の積極雇用を進めている地元企業の事例、市内における子ども食堂の問題、未来の世代への環境的配慮を考えた食品ロス研究、まちづくりに向けた実践報告例などを、地域の方々と共有しています(下写真)。

<第3回 ダイバーシティSEKIシンポジウム> 7月4日(日)

LGBTQをテーマとした本校・関市・中部学院大主催のイベントであり、コロナ禍を考慮し今回はオンラインで実施しました。本校は6年前から関市のLGBTフレンドリー宣言に賛同し、多様な性に関し寛容な社会の構築に向けて様々な啓発活動に努めています。

<SEKI米粉倶楽部の活動> 小麦アレルギーと食の多様性

家庭クラブでは、地元産ハツシモを使った米粉の消費拡大をめざす活動を行っています。昨年度に引き続き今年度も、小麦アレルギーの問題に関し、当事者(子どもと母親)を講師とするセミナーを開催し、アレルギーに苦しむ方々の声を聴き、グルテンフリーの意義について深く考える機会を設定しました。研究発表の成果は、今年度の全国家庭クラブ研究発表大会(ホームプロジェクト)の東海北陸ブロック代表として発表し、産業教育振興中央会賞(全国2位に相当)、クラブ員奨励賞(生徒による投票全国1位)を受賞しました。

<地域研究のツーリズム提案>

～車いすユーザーや高齢者、足腰の弱い方のために～

肢体不自由や高齢などの理由で、山城などの史跡を訪れることが難しい方々にも、歴史の醍醐味を味わっていただくとはできないか。地域研究部では、Zoomアプリやドローンを駆使したバーチャル歴史ツアーを構想し、実現に向けた実験を進めています。その経過発表は、今年度5月の日本考古学協会総会で優秀賞を受賞し、さらに8月には全国郷土研究発表大会(高文連主催)においても優秀賞を受賞しました。

